



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 参天製薬株式会社

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ グループマネージャー (氏名) 日比 貴史 TEL 06-4802-9434

四半期報告書提出予定日 平成26年11月7日 配当支払開始予定日 平成26年11月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	71,925	3.8	13,194	△8.7	13,602	△8.5	9,099	1.2
26年3月期第2四半期	69,263	22.1	14,457	10.5	14,861	10.4	8,994	0.2

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 10,855百万円 (△7.1%) 26年3月期第2四半期 11,689百万円 (52.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	110.16	109.74
26年3月期第2四半期	108.99	108.68

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	261,632	188,202	71.7	2,271.32
26年3月期	231,105	181,209	78.2	2,189.50

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 187,631百万円 26年3月期 180,810百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	50.00	—	50.00	100.00
27年3月期	—	50.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	156,000	4.9	30,000	9.4	30,000	7.4	19,500	14.0	236.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
なお、当第2四半期連結会計期間において、Santen Switzerland SA、Santen Italy S. r. l. およびSanten UK Limitedを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	82,611,903株	26年3月期	82,582,903株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	3,018株	26年3月期	2,324株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	82,594,446株	26年3月期2Q	82,518,839株

※ 会計基準の適用に関する説明

当社は、平成27年3月期決算より国際会計基準(IFRS)を任意適用する予定ですが、上記「平成27年3月期の通期連結業績予想」は引き続き日本基準に基づき作成しています。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

当社は、平成26年11月6日（木）に証券アナリスト、機関投資家向けの決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料は、開催後当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題に関する説明 .....	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11
(重要な後発事象) .....	12
4. 連結参考資料 .....	13
(1) 主要製品売上高 .....	13
(2) 医薬品開発状況 .....	14
(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額 .....	16

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第2四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、消費税率引き上げに伴う需要の反動や薬価改定の影響があったものの、網膜疾患治療剤および抗アレルギー点眼剤の伸長等により、前年同期と比べ拡大しました。海外医療用眼科薬市場は、欧州・アジアで堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べほぼ横ばいで推移しました。

このような市場環境の下、事業自体は堅調に推移したことにより、当第2四半期の売上高は増収となりました。米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴う無形固定資産の減価償却費の計上により、販売費及び一般管理費が増加したため、営業利益および経常利益は減益となりました。なお、有形・無形固定資産減価償却費、長期前払費用償却費控除前の利益ベースでは、当第2四半期163億1千7百万円となり、前年同期161億2千1百万円に対し、増益となりました。四半期純利益は、前年同期に事業構造改善費用を計上しましたが、当期は特別損失の計上がないため、増益となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期増減率
売上高	69,263	71,925	3.8%
営業利益	14,457	13,194	△8.7%
経常利益	14,861	13,602	△8.5%
四半期純利益	8,994	9,099	1.2%

[売上高]

前年同期と比べ3.8%増加し、719億2千5百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業における眼科用VEGF阻害剤「アイリーア硝子体内注射液」等の成長や、海外における普及促進活動により当社製品が市場に浸透したことによるものです。

[営業利益]

前年同期と比べ8.7%減少し、131億9千4百万円となりました。

売上原価は前年同期と比べ2.1%減少し、265億9千3百万円となり、売上原価率は前年同期と比べ2.2ポイント減少し、37.0%となりました。販売費及び一般管理費は前年同期と比べ16.3%増加し、321億3千8百万円となり、このうち研究開発費は84億8千8百万円となりました。

なお、上述の通り、償却前利益ベースでは、増益となりました。

[経常利益]

前年同期と比べ8.5%減少し、136億2百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期と比べ1.2%増加し、90億9千9百万円となりました。

② 当第2四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は98.2%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期と比べ4.1%増加し、706億4千6百万円となりました。営業利益は、132億2千4百万円となりました。一方、その他の事業の売上高は、前年同期と比べ7.7%減少し、12億7千9百万円となりました。営業損失は、3千万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	56,045	△1.3%	14,600	31.9%	70,646	4.1%
医療用医薬品	52,836	△1.1%	14,563	31.8%	67,399	4.5%
うち眼科薬	47,709	△0.4%	14,022	30.8%	61,731	5.3%
うち抗リウマチ薬	4,804	△7.7%	30	△38.6%	4,834	△8.0%
うちその他医薬品	321	6.5%	511	83.3%	833	43.4%
一般用医薬品	3,209	△5.1%	36	91.4%	3,246	△4.5%
その他の事業	1,268	△7.0%	11	△47.3%	1,279	△7.7%
医療機器	1,154	△6.9%	11	△47.3%	1,165	△7.6%
その他	114	△8.4%	—	—	114	△8.4%
合計	57,314	△1.5%	14,611	31.7%	71,925	3.8%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開しましたが、薬価改定や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動、競合の影響などがあり、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ0.4%減少し、477億9百万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した「タプロス点眼液」の売上高は、前年同期と比べ5.6%減少し、39億2百万円となりました。また、「コソプト配合点眼液」の売上高は、前年同期と比べ9.1%減少し、52億3千9百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」の売上高は、薬価改定や後発品促進策の影響により前年同期と比べ16.8%減少し、77億1千5百万円となりました。また、「ジクアス点眼液」の売上高は、前年同期と比べ3.9%減少し、33億9千万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、「クラビット点眼液」、「タリビッド点眼液」両剤合わせた売上高は、薬価改定や後発品促進策の影響により前年同期と比べ20.7%減少し、39億2千8百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、スギ花粉の飛散が前年と比べ小規模ではありましたが、平成25年11月上市の新製品「アレジオン点眼液」を中心に医薬情報提供活動に注力した結果、「リボスチン点眼液」と「アレジオン点眼液」を合わせた売上高は、前年同期と比べ198.7%増加し、23億9千5百万円となりました。

網膜疾患治療剤領域では、滲出型加齢黄斑変性等の治療ニーズに応える「アイリーア硝子体内注射液」の売上高は、市場が拡大する中、順調に市場浸透した結果、前年同期と比べ30.2%増加し、106億2千8百万円となりました。

〔海外〕

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ30.8%増加し、140億2千2百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、主力品の普及促進活動の展開により、中国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬については、薬価改定や競合の影響もあり、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」を合わせた売上高は、前年同期と比べ8.0%減少し、48億3千4百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、8億3千3百万円となりました。

（一般用医薬品）

一般用医薬品の売上高は、「サンテ」シリーズ全体のブランド価値向上のための販売促進活動に注力しましたが、国内における消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響や、天候不順に伴う小売店への来客数減少などにより、前年同期と比べ4.5%減少し、32億4千6百万円となりました。

〔その他の事業〕

（医療機器）

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力ル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に注力したものの、国内の競合の影響などもあり、前年同期と比べ7.6%減少し、11億6千5百万円となりました。

（その他）

その他の売上高は、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものと、サプリメント製品の販売によるもので、1億1千4百万円となりました。

### ③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として新製品の創製を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な研究開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売しています。海外では欧州とアジアで自社販売しており、中国では製造販売承認を申請中です。緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、平成25年9月に日本において製造販売承認を取得しました。また、欧州において製造販売承認を申請中です。緑内障・高眼圧症を適応症とするEP2受容体作動薬DE-117（一般名：未定）は、米国で後期第Ⅱ相試験を実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では平成25年10月より販売しています。中国では製造販売承認を申請中です。

網膜・ぶどう膜炎領域において、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、米国、日本および欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、DE-120（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

サンテン・エス・エー・エス（連結子会社）の臨床開発品について、Cyclokate（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン、製品名：「Ikervis」（アイケルビス））は、重症ドライアイを適応症として欧州で平成25年12月より製造販売承認を申請中です。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の資産は、現金及び預金の減少などがありましたが、米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴う製造販売承認権の計上などにより、前連結会計年度末と比べ305億2千7百万円増加し、2,616億3千2百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、未払法人税等の減少などがありましたが、米メルク社の眼科製品の譲り受けに関して短期借入れを行ったことなどにより、前連結会計年度末と比べ235億3千4百万円増加し、734億3千万円となりました。なお、短期借入れは平成26年10月に長期借入れへ借換えしました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末と比べ69億9千3百万円増加し、1,882億2百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ6.5ポイント減少し、71.7%となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払いが81億2千万円、仕入債務の減少が68億4千5百万円ありましたが、税金等調整前四半期純利益が136億6千1百万円、減価償却費が27億2千9百万円あったことなどにより、32億5千8百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還による収入が21億3百万円ありましたが、固定資産の取得による支出が578億8百万円あったことなどにより、557億4千5百万円の支出となりました。なお、固定資産の取得の主な内容は、米メルク社の眼科製品の譲り受けに伴う無形固定資産の取得によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いが41億2千7百万円ありましたが、米メルク社の眼科製品の譲り受けに関し、短期借入れによる収入が350億円あったことなどにより、309億3千7百万円の収入となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ209億4千3百万円減少し、514億5千2百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題に関する説明

中期経営計画について

参天製薬グループは、基本理念の実現に向けて、2020年に向けた長期的な経営ビジョンを掲げ、世界中の一人でも多くの患者さんの健康の増進に貢献するために、「世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー」を目指します。さらに、長期的な経営ビジョンの実現に向け、より具体的な取り組みを進めるために、2014年度から2017年度までの4カ年の中期経営計画を策定し、以下の3つの基本方針を主たる対処すべき課題として取り組んでおります。

- (1) 持続的成長を可能とするための製品創製への変革、生産性向上の実現
- (2) アジア・欧州での事業成長および新規市場参入によるプレゼンスの向上
- (3) 持続的な成長を実現するための人材育成および組織構築

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間において、Santen Switzerland SA、Santen Italy S.r.l.およびSanten UK Limitedを新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	63,509	47,072
受取手形及び売掛金	52,086	52,304
有価証券	13,111	6,503
商品及び製品	16,223	14,795
仕掛品	390	321
原材料及び貯蔵品	3,417	3,534
繰延税金資産	2,346	2,244
その他	4,925	3,550
貸倒引当金	△3	△4
流動資産合計	156,006	130,321
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,033	45,151
減価償却累計額及び減損損失累計額	△30,886	△31,468
建物及び構築物（純額）	14,146	13,683
機械装置及び運搬具	13,453	13,769
減価償却累計額及び減損損失累計額	△11,242	△11,514
機械装置及び運搬具（純額）	2,210	2,255
土地	8,266	8,276
リース資産	285	270
減価償却累計額及び減損損失累計額	△129	△118
リース資産（純額）	155	152
建設仮勘定	816	1,290
その他	12,804	13,102
減価償却累計額及び減損損失累計額	△10,772	△11,029
その他（純額）	2,032	2,073
有形固定資産合計	27,628	27,731
無形固定資産		
のれん	6,297	5,741
仕掛研究開発	8,357	8,193
製造販売承認権	—	55,390
ソフトウェア	1,826	1,665
その他	102	215
無形固定資産合計	16,585	71,205
投資その他の資産		
投資有価証券	21,739	23,730
繰延税金資産	5,488	4,941
その他	3,657	3,702
投資その他の資産合計	30,885	32,374
固定資産合計	75,099	131,311
資産合計	231,105	261,632

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,270	7,429
短期借入金	—	35,000
未払金	9,695	8,733
未払法人税等	8,169	4,716
賞与引当金	3,573	3,170
返品調整引当金	135	142
その他	3,249	3,340
流動負債合計	39,093	62,533
固定負債		
リース債務	59	61
繰延税金負債	2,796	2,741
退職給付に係る負債	5,400	5,657
事業構造改善引当金	802	853
資産除去債務	221	222
その他	1,521	1,360
固定負債合計	10,802	10,897
負債合計	49,896	73,430
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,264	7,313
資本剰余金	7,958	8,008
利益剰余金	160,115	165,085
自己株式	△9	△13
株主資本合計	175,328	180,394
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,035	5,256
為替換算調整勘定	2,574	3,034
退職給付に係る調整累計額	△1,128	△1,053
その他の包括利益累計額合計	5,481	7,237
新株予約権	399	570
純資産合計	181,209	188,202
負債純資産合計	231,105	261,632

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	69,263	71,925
売上原価	27,160	26,593
売上総利益	42,102	45,332
販売費及び一般管理費	27,645	32,138
営業利益	14,457	13,194
営業外収益		
受取利息	32	34
受取配当金	247	278
生命保険配当金	147	143
その他	131	126
営業外収益合計	560	583
営業外費用		
支払利息	3	34
為替差損	73	43
借入手数料	—	45
減価償却費	71	32
その他	8	21
営業外費用合計	156	176
経常利益	14,861	13,602
特別利益		
固定資産処分益	—	59
特別利益合計	—	59
特別損失		
固定資産処分損	9	—
施設利用権評価損	1	—
事業構造改善費用	867	—
特別損失合計	878	—
税金等調整前四半期純利益	13,983	13,661
法人税、住民税及び事業税	5,467	4,575
法人税等調整額	△478	△13
法人税等合計	4,988	4,562
少数株主損益調整前四半期純利益	8,994	9,099
四半期純利益	8,994	9,099
少数株主損益調整前四半期純利益	8,994	9,099
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△73	1,220
為替換算調整勘定	2,669	460
退職給付に係る調整額	99	75
その他の包括利益合計	2,695	1,756
四半期包括利益	11,689	10,855
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,689	10,855
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	13,983	13,661
減価償却費	1,336	2,729
のれん償却額	383	428
事業構造改善費用	867	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	409	252
受取利息及び受取配当金	△280	△313
支払利息	3	34
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,317	△100
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,480	1,472
仕入債務の増減額 (△は減少)	873	△6,845
その他	△1,602	△230
小計	14,136	11,088
利息及び配当金の受取額	289	322
利息の支払額	△1	△31
法人税等の支払額	△3,131	△8,120
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,293	3,258
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△57	△70
定期預金の払戻による収入	57	70
有価証券の取得による支出	△203	—
有価証券の売却及び償還による収入	800	2,103
固定資産の取得による支出	△2,639	△57,808
固定資産の売却による収入	1	68
投資有価証券の取得による支出	△3,911	△109
その他	△0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,954	△55,745
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	—	35,000
配当金の支払額	△4,121	△4,127
その他	203	65
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,918	30,937
現金及び現金同等物に係る換算差額	476	605
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,897	△20,943
現金及び現金同等物の期首残高	59,797	72,396
現金及び現金同等物の四半期末残高	61,694	51,452

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

- 1 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	67,877	1,386	69,263	—	69,263
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	63	63	△63	—
計	67,877	1,449	69,326	△63	69,263
セグメント利益又は損失(△)	14,643	△185	14,457	—	14,457

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

- 2 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)	計	調整額	四半期連結損益 及び包括利益 計算書計上額
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	70,646	1,279	71,925	—	71,925
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	312	312	△312	—
計	70,646	1,592	72,238	△312	71,925
セグメント利益又は損失(△)	13,224	△30	13,194	—	13,194

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

- 2 当第2四半期連結累計期間において、医薬品事業の資産が、前連結会計年度末に比べ大幅に増加しています。Merck & Co., Inc. の眼科製品の譲り受けによる増加額は55,390百万円です。

(重要な後発事象)

[重要な権利等の譲受]

当社は、平成26年5月13日開催の取締役会において、Merck & Co., Inc. (以下、米メルク社とい  
います。)の眼科製品の譲受契約を締結することを決議し、同日付で調印しました。これを受け  
て、平成26年7月1日に日本・アジア太平洋地域および欧州地域(イタリアおよびフランスを除  
く。)に関する資産の譲受手続きが完了し、資産の譲受価額として548百万米ドルを支払いました。

次に、欧州地域のうち譲受手続きが完了していなかったイタリアおよびフランスに関する資産の  
譲受手続きが平成26年10月1日に完了し、資産の譲受価額として50百万米ドルを支払いました。

これをもって、譲受契約の対象資産のすべての譲受手続きが完了しました。

#### 1. 譲り受けの目的

当社は、2020年に向けた長期的な経営戦略に基づき、「世界で存在感のあるスペシャリティ・  
カンパニー」の実現に向けて様々なチャレンジを進めています。本契約に基づいた資産の譲り受  
けにより、緑内障・高眼圧症治療剤の製品ラインアップを充実させ、患者さんの医療ニーズへの  
さらなる貢献を目指します。

日本国内市場では、新たな製品を取得することで緑内障事業の強化を図り、また欧州・アジア  
地域では、現在当社が事業を展開していない国・地域へのアクセスを獲得することによる海外事  
業展開の加速を目指すと共に、緑内障の製品を取得することで事業基盤の強化が可能となると考  
えたため、米メルク社から当該資産を譲り受けることとしました。

#### 2. 譲り受ける相手会社の名称等

- ①名称 : Merck & Co., Inc.
- ②住所 : 米国ニュージャージー州
- ③代表者の氏名 : Kenneth C. Frazier
- ④資本金の額 : 1,788百万米ドル
- ⑤事業の内容 : 医療用医薬品、ワクチン、バイオ医薬品、コンシューマー・ヘルスおよびアニ  
マル・ヘルス製品の開発・製造・販売

#### 3. 譲り受ける資産の内容

日本・欧州・アジア太平洋地域において米メルク社が有する眼科用医薬品(COSOPT, COSOPT  
PF, TRUSOPT, TRUSOPT PF, TIMOPTIC, TIMOPTIC PF, TIMOPTIC XE, SAFLUTAN, TAPTIQOM)に関す  
る特許権、商標権、ドメイン名、製造販売承認権等

4. 連結参考資料  
 (1) 主要製品売上高

(単位:百万円)

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成26年3月期		平成27年3月期	
		第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一 ベース】	第2四半期 累計実績	通期見込
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	6,149 (6.6)	12,845 (18.3)	6,218 (1.1)	12,178 (△5.2)
タリビッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	973 (0.8)	2,040 (11.4)	961 (△1.3)	1,912 (△6.3)
タブロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	4,355 (10.7)	9,509 (20.8)	4,299 (△1.3)	8,466 (△11.0)
コソプト配合点眼液 ドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	5,761 (35.5)	11,846 (31.5)	5,255 (△8.8)	10,390 (△12.3)
チモプトール点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	629 (△13.8)	1,184 (△13.3)	547 (△13.0)	1,176 (△0.7)
チモプトールXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	1,009 (△8.2)	1,931 (△7.4)	864 (△14.4)	2,002 (3.7)
トルソプト点眼液 ドルゾラミド塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	- -	- -	385 -	1,925 -
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	777 (△18.1)	1,549 (△10.7)	611 (△21.3)	1,317 (△15.0)
レスキュラ点眼液 イソプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	1,096 (△5.8)	2,146 (△4.3)	971 (△11.4)	1,930 (△10.1)
アレジオン点眼液 エピナスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー点眼剤	- -	2,103 -	1,562 -	6,562 (212.0)
リボスチン点眼液 レボカバスチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー点眼剤	801 (△31.9)	2,534 (△37.2)	832 (3.8)	1,944 (△23.3)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	10,748 (△1.2)	21,823 (3.1)	9,870 (△8.2)	21,031 (△3.6)
ジクアス点眼液 ジクアホソルナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	3,529 (57.2)	7,937 (42.7)	3,594 (1.8)	8,235 (3.8)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	1,807 (△9.8)	3,973 (△10.7)	1,946 (7.7)	3,964 (△0.2)
カリユニ点眼液 ピレノキシン点眼液	老人性白内障治療剤	1,957 (0.6)	4,059 (7.8)	1,992 (1.8)	4,161 (2.5)
オパガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	1,433 (△0.4)	2,867 (0.9)	1,291 (△9.9)	2,654 (△7.4)
アイリーア硝子体内注射液 アフリバルセプト(遺伝子組換え)硝子体内注射液	眼科用VEGF阻害剤	8,164 -	18,756 (489.2)	10,628 (30.2)	19,200 (2.4)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	1,633 (△3.8)	3,134 (△3.7)	1,355 (△17.1)	2,735 (△12.7)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	1,949 (0.8)	3,819 (1.4)	1,746 (△10.4)	3,619 (△5.2)
メトレート錠 メトトレキサート錠	抗リウマチ剤	1,194 (18.8)	2,410 (18.1)	1,163 (△2.6)	2,363 (△2.0)
一般用医薬品		3,400 (6.9)	6,455 (△0.3)	3,246 (△4.5)	6,331 (△1.9)

下段:対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア	2010年3月					
				中国	2011年1月					
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月以降、日本や欧米で発売。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポール等で発売。2011年1月より、中国で製造販売承認を申請中。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp.(米国)	韓国	2013年10月					
				中国	2012年1月					
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月より日本にて発売。2013年10月、韓国にて発売。2012年1月より、中国で製造販売承認を申請中。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
				日本						
				欧州						
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。米国・日本・欧州でフェーズ3試験を実施中。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	2013年9月					
				欧州	2013年6月					
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体およびβ遮断剤の配合剤。欧州にて製造販売承認を申請中。2013年9月、日本にて製造販売承認を取得。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国	(フェーズ2b)					
新規メカニズムのEP2受容体作動薬。2014年6月より、米国でフェーズ2b試験を実施中。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	日本	2013年10月					
				アジア	2014年3月					
プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2013年10月、日本で発売。2014年3月よりアジアで順次、製造販売承認を申請中。										
一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-120	滲出型加齢黄斑変性	自社	米国	(フェーズ1/2a)					
VEGFおよびPDGFの阻害作用(デュアル阻害剤)を有する硝子体内注射剤。2014年1月より、米国でフェーズ1/2a試験を実施中。										

■サンテン・エス・エー・エス開発品の状況(臨床段階)

一般名	開発品名	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokat (シクロカット)	重症ドライアイ	自社	欧州				2013年12月		
				米国						
免疫抑制作用により、重症ドライアイの他覚所見及び自覚症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。										
シクロスポリン	Vekacia (ベカシア)	春季カタル	自社	欧州						
				免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。						
ラタノプロスト	Catioprost (カチオプロスト)	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
				プロスタグランジンF <sub>2α</sub> 誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。						
デキサメタゾン パルミチン酸エステル	Cortiject (コルチジェクト)	糖尿病黄斑浮腫	自社	米国	(フェーズ1/2)					
				抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。						

※カチオプロスト、コルチジェクトの2品は、事業性について評価中。

■2014年度第1四半期発表時(2014年8月5日)からの変更点

・変更点はありません。

(3) 設備投資、減価償却費および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位:百万円)

	平成26年3月期		平成27年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一ベース】	第2四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	1,844	3,155	1,354	4,500

■減価償却費

(単位:百万円)

	平成26年3月期		平成27年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一ベース】	第2四半期 累計実績	通期見込
総額	1,174	2,612	2,615	6,700
製造経費	582	1,330	700	1,290
販売管理費	289	648	1,581	4,620
研究開発費	302	634	333	790

(注1)のれんおよび長期前払費用の償却費は除いています。

(注2)添付資料「3. 四半期連結財務諸表(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(重要な後発事象)」に記載の重要な権利等の譲り受けに伴い取得した無形固定資産の償却費が、販売管理費において第2四半期累計実績額に1,175百万円、通期見込額に3,700百万円含まれています。

■研究開発費

(単位:百万円)

	平成26年3月期		平成27年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績 【決算期統一ベース】	第2四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	8,078	19,040	8,488	19,300
対売上高比	11.7%	12.8%	11.8%	12.4%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。